みおつくし 福祉・介護の仕事 きらめき大賞選考会

【開催】 令和７年９月 19 日

【委員】 座　　長　　鈴木 大介　（大阪成蹊短期大学 准教授）
座長代理　　堀江 幸代　（社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 事務局次長兼福祉部長）
委　　員　　淺野 幸子　（公益社団法人 大阪介護福祉士会 会長）
委　　員　　瀬戸 康男　（大阪市障害児・者施設連絡協議会 役員）
委　　員　　田中 綾　（一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 理事）
委　　員　　水流添 真　（公益社団法人 大阪社会福祉士会 理事）

【講評】

賞	タイトル／受賞者	講　　評
最優秀賞	“だいじょうぶ”のおまじない 李 映叡 社会福祉法人 聖家族の家 聖母託児園	乳児院でのエピソードで、子どもの成長を見守るプロセスの中、専門職として感情をコントロールしながら関わり、子どもの成長にじっくり寄り添うことで喜びややりがいが伝わる作品である。
優秀賞	私を変えた”いいね”の力 髙田 正和 社会福祉法人 大阪自彊館 特別養護老人ホーム ジュネス	福祉現場でお互いに評価しながら、仕事ができる「いいね投票」という取組事例が紹介されており、福祉・介護の仕事のやりがいや楽しさが伝わる作品である。この取り組みは、さまざまな職場で活用できる汎用性があり、職場の人たちが快適に働くための工夫として有用なものである。
優秀賞	食欲旺盛ばあちゃんとの 35 日間奮闘記 筒井 奈穂美 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホームこうのとり	栄養士からのエピソードで、普通食を食べることができない施設入居者の「普通食を食べたい」という思いを叶えることができないか、栄養士として考え、訪問歯科と協力することで施設入居者の思いを叶えるまでの様子が良く描かれている作品である。栄養士は福祉業界でも求められている人材であり、その活躍が伝わる良い作品である。
特別賞	人見知り同士が心を開いた時、フロアがすごくうるさくなった件について 梅田 ユミ 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム こうのとり	介護職員として一人の施設入居者と関わる中で、一般的な介助をするも入居者からの反応は良くない状況の中、先輩職員から入居者の思いを考えた介助を行うことについてアドバイスを受け、そのアドバイスにより入居者に喜んでもらえ、今後もより良い支援ができる介護職員になりたいと思うようになった作品であり、福祉の現場で行われている状況を良く映し出している作品である。
特別賞	グループホームでの ターミナルケアの実践 （非公開） 特定非営利活動法人だんでらいおん みんなの家フェロー	余命を宣告された障がい者のターミナルケアについての作品である。介護に関わる仕事において、終末期をどう迎えるのか、それまでの時間を介護職員としてどのように支えることができるのかを考えることが、かけがえのない魅力であることが伝わる作品である。
特別賞	未経験から介護の道へ （非公開）	未経験者による訪問介護に関するエピソードで、訪問介護の現状や利用者から良い影響を受け、作者が成長していく様子が伝わる作品。文章量は多くないが、作者の熱意が垣間見える作品である。